

第11回農医連携セミナー

動物実験の適切な施行の 国際原則3Rs*と代替技術

高機能細胞デバイスを用いた
生体模倣モデル(Microphysiological System)への期待

* 3Rs・・・Replacement(動物を用いない代替法への置換)、Reduction(動物数の削減)、Refinement(動物に対する苦痛軽減)



入場無料・申込不要

日時：2019年3月6日(水) 16時～18時

場所：茨城大学農学部こぶし会館研修室A,B

セミナー内容：

化粧品業界ではOECDテストガイドラインを順守する立場から、実験動物を用いて開発された化粧品の販売が2013年から禁止されており、欧州は勿論、我が国の化粧品メーカーでも実験動物代替法の開発が喫緊の課題になっています。一方で、細胞治療や再生医療の研究開発によってヒト細胞に関する理解が格段に向上し、昨今ではその水平展開への感心が高まっています。特に、近年の高機能細胞デバイスを用いた生体模倣モデルは、医薬品開発の成功確率の向上と期間短縮をもたらす新技術として世界中の期待が集まっています。

そのような社会背景と動物実験代替技術に関して、第1線で活躍されている産総研創薬基盤研究部門医薬品アッセイデバイス研究グループ金森敏幸先生にご講演いただきます。

動物実験の適切な施行の国際原則3Rs*と代替技術

【講師紹介】

国立研究開発法人産業技術総合研究所
生命工学領域 創薬基盤研究部門 研究グループ長

金森 敏幸 氏（かなもり としゆき）



ご経歴

1983年 早稲田大学理工学部応用化学科卒
1985年 同大学院理工学研究科応用化学専攻修士課程修了
1985年 三菱レイヨン（株）豊橋事業所勤務
1990年 早稲田大学理工学総合研究センター客員研究員
1994年 博士（工学）
1995年 通商産業省工業技術院物質工学工業技術研究所および
独立行政法人産業技術総合研究所（改組による）勤務
2002年 同 物質プロセス研究部門機能集積材料グループ長,
2003年 同 バイオニクス研究センターバイオナノマテリアルチーム長
2010年 同 幹細胞工学研究センター医薬品アッセイデバイスチーム長
2015年 同 創薬基盤研究部門医薬品アッセイデバイス研究グループ長（現職）

この間、湘南工科大学工学部、東京農工大学工学部、成蹊大学工学部、東京理科大学理工学部、筑波大学医学群医学類等で非常勤講師、芝浦工業大学工学部、筑波大学ライフイノベーション学位プログラムの連携大学院教授を歴任。

ご専門分野

生体内および医療用デバイスにおける移動速度論、機能性材料を応用した医療用デバイス・システム。

ご所属学会

化学工学会，日本人工臓器学会，日本生物工学会，化学とマイクロ・ナノシステム学会，日本動物実験代替法学会，日本膜学会，高分子学会，日本透析医学会，日本医工学治療学会，日本バイオマテリアル学会，日本再生医療学会，各会員. 細胞アッセイ研究会代表幹事。

農医連携プロジェクト今後のセミナー予定

3月14日(木) 15時～17時 場所 茨城大学農学部第1会議室
第12回農医連携セミナー「腸内環境からころを考える」
入場無料・事前登録不要

3月中 もう一回予定しています。

農医連携プロジェクト URL : <http://iucam-ibaraki.wixsite.com/iucam>



問い合わせ先

内 容：茨城大学農学部食生命科学科 豊田 淳 029-888-8584

場所等：茨城大学研究・産学官連携機構 学術研究部門 URA 間宮るい 029-888-8509